

## 第9回MGR

### トピック: 大腸癌、新しい分子標的薬

発表者: 廣瀬純穂 (専修医)

コメンテーター: 鈴木洋司 (消化器内科)

文献:

***K-ras* Mutations and Benefit from Cetuximab in Advanced Colorectal Cancer**

Christos S. Karapetis, Shirin Khambata-Ford, et al

N Engl J Med 2008; 359:1757-1765

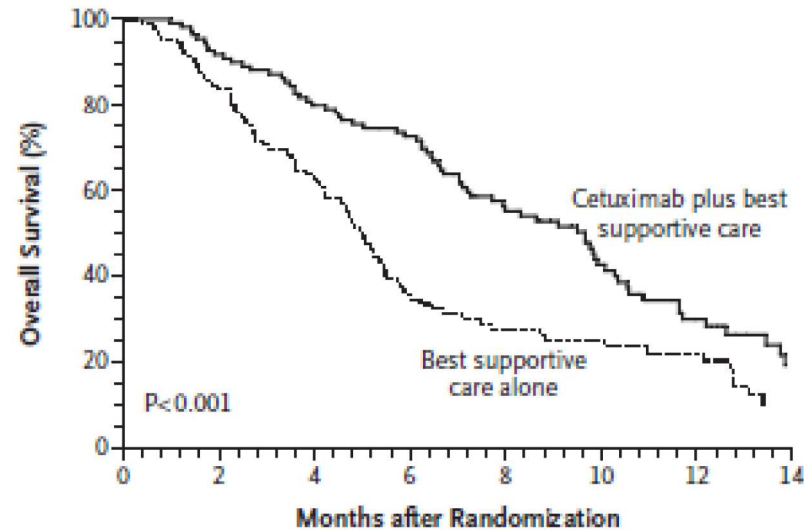
2010年9月13日

# 対象・方法

- ・ 期間 2003年12月～2005年8月
- ・ 切除不能の進行大腸癌の患者を  
Cetuximab投与群と対症療法群にランダム  
に振り分けた。
- ・ 腫瘍組織からK-ras遺伝子の変異状態と  
両群の生存期間との関連性を調べた。

# K-ras遺伝子野生型患者の生存期間

B Wild-type K-ras

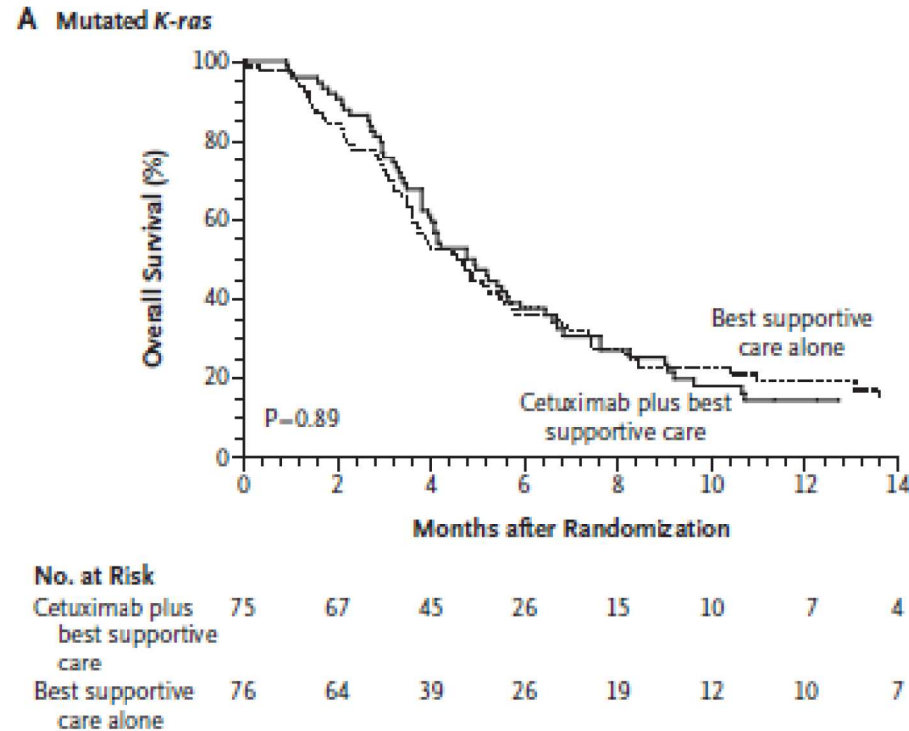


No. at Risk		0	2	4	6	8	10	12	14
Cetuximab plus best supportive care	110	101	88	75	48	31	19	8	
Best supportive care alone	105	88	65	34	23	17	12	5	

		MST	一年生存率
Cetuximab+対症療法	→	9.5カ月	28.3%
対症療法	→	4.8カ月	20.1%

ハザード比=0.55、 $P < 0.01$  → 有意差あり

# K-ras遺伝子変異患者の生存期間



Cetuximab+対症療法 → MST 4.5カ月 一年生存率 13.2%

対症療法 → MST 4.6カ月 一年生存率 19.6%

ハザード比=0.98、P=0.89 → 有意差なし

# まとめ

Cetuximab は、

K-ras遺伝子が**変異型**の腫瘍

→有効性なし

K-ras遺伝子が**野生型**の腫瘍

→有効性あり